

・復活後第四主日

泉のほとり

今月の詩編「第三十二編」

いかに幸いなことでしょう

背きを赦され、罪を覆っていただいた者は、

いかに幸いなことでしょう

主に咎を数えられず、心に欺きのない人は、



何を惜しもうか

主イエスは復活させられたラザロのところへ再び訪れてくださいました。主のために夕食が用意され、甦らせたラザロが主と共に食事の席に着いていた時、ラザロの姉妹、マリヤが純粋で非常に高価なナルドの香油を、リトラ持つて来て、主イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐいました。

人を遣わした時、主がすぐに来てくださったからラザロは死んだと、主を恨んだマリヤでした。「なぜあの時、すぐに来てくださらなかったのか」と、遅れて来られたその足への嘆きは、今や、彼女に主の足はなんと高貴な足であることか。その感謝がこの高価な香油を主の足に注ぐことに表されました。

主が「復活であり、命である」とは「やがて」のことも、「やがて」の時の希望でもなく、今ある事実として見る信仰が与えられたのです。もはやこの地上での人の死、兄弟の死を、ただ単に悲しむものではなく、悲しみで終わり、死で終わる世界ではなく、いのちの世界を見る信仰が与えられたのです。その感謝が涙と、主の足に香油を注ぎ、自分の髪の毛で拭う彼女の行動とに表されたのです。

ところが、弟子の一人で、後にイエスを裏切るイスカリオテのユダが「なぜ、この香油を300デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか」と言いました。ユダが「なぜ貧しい人に施さないのか」と言ったのは、貧しい人々のことを心にかけていたからではなく、彼は盗人であつて、金入れを預かっていたながら、そこから盗んでいた人です。金銭を愛する人でした。

この後、彼は祭司長たちのところへ行き、「あの男をあなたたちに引き渡せば、幾らくれますか」と交渉するのです。銀貨30枚と値がつけられたのです。30デナリオンのようです。そのようなユダから、今マリヤが厳しく叱られているのです。人の言う「正義」とは常にこのような不条理の中、行われていることが多いのではないのでしょうか。

一方、たった327グラムの量で300万円を超える価値の香油が口の前で一瞬にして、主イエスの足にすべて注がれるのを見たら、それを見る多くが「もつたいない」と思うのではないのでしょうか。ユダほどではないかもしれませんが、人は金銭など口に見える世の価値あるものに捕らわれていますと、今でもこのマリヤの行為が理解できず、「貧しい人たちに施すべきだ」との声が正しいとされるでしょう。

純粋な香油を主に注いでも、注いでも彼女の中で絶えず溢れ出る主への感謝の心をわずかも主イエスに抱いたことがあるなら、彼女の尊い行為に敬意を払い、一緒に喜んでしょう。皆さん、私たちはその心、主への感謝を今でも、保っているのでしょうか。もし私たちが「もつたいない」と思うようなら、「初めの愛」に立ち返らなければならないでしょう。

過越祭が近づき、六日後には、主が十字架で死なれるのです。主は「マリヤのするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それを取って置いたのだから」と語られました。「貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいる。わたしはいつも一緒にいるわけではない」と語られたのです。

主イエスの死、その葬りのために、たかだか300デナリオンです。リトラの香油が高価と言えるでしょうか。その死と葬りは、どうしてあるのか。私のために流される血、十字架であるのです。高価な物といえども、たかが香油ではないのでしょうか。しかし、この時、他の弟子たちも「もつたいない」と思ったようです。そして、ご自身を30デナリオンで売り渡すユダ。また主ご自身を殺そうとするエルサレムの中で「わたしを葬る準備をしてくれた」のは、「彼女だけ」と聞こえてくるものです。

私のために葬られた主です。マリヤはそれを知らずに、主の葬りを備えたのです。私たちは知っています。この十字架と死が私のためにあつたことを。その主イエスに、何を惜しましようか。何もかもを注いでも、いや「そうせずにはいられない」ようにされたのも、我が主イエスではないでしょうか。生涯、決して表しきれないその感謝をほんの少しでも表して生きようではありませんか。

2024年度

教 会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

《今日のお知らせ》

- 礼拝後、地下ホールで四月教会総会を行います。
- 次回の洗礼式と転入会式は七月二十八日です。その時に受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、五月一九日までに牧師宛ご提出ください。願書は事務所にあります。

- 教会員の桑原あさひさんのご家庭に、四月一五日、長男の良朝(よしとも)君が誕生しました。

《ぶどうの会より》

教会総会のため、本日のぶどうの会は休会です。

《今後の予定》

- 五月五日 信仰者たちに学ぶ会
- 五月一九日 ペンテコステ礼拝

《教会事務所より》

- 二〇二四年度 教会員名簿の作成の時期を迎えました。四月総会の際に、地下ホールの入口に名簿を置きますので、ご自分の住所・郵便番号・電話番号をご確認いただき、訂正がなければ、お名前の横にレ印(チェックマーク)をお願い致します。訂正等がある場合はスタッフの宮間までお知らせください。

《公 告》

左記により、四月教会総会を開催致します。
現住陪餐会員はご参加下さい。

2024年4月21日(日)

キリスト品川教会

代表役員 黄允湜

記

日時 2024年4月28日(日) 12時10分(目途)

場所 グローリア・チャペル・地下ホール

及 ビリモータ

議 題

1. 2023年度教勢報告承認に関する件
2. 2023年度諸会計補正予算及び決算報告、
財産目録承認に関する件
3. 2023年度諸報告に関する件
4. 菊池美穂子先生の副牧師辞任に関する件

※議員資格 満18才以上の現住陪餐会員。

(陪席) 義務教育終了後満18才未満の現住陪餐会
員と不在会員、教会員でない附属幼稚園教諭は、教
会総会に陪席することができます。

(キリスト品川教会教規 第3章第14条より)

《今日の子ども礼拝》

説教 「本当に必要なものは」

聖書 ルカ12章13～21節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「あなたを探される神さま」

聖書 ルカ15章1～10節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

●主日礼拝(午前10時30分)

讃美歌 154番 494番

説教 「心を一つにして」

聖書 使徒4章23～31節

説教者 宮間彰広 兄





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 153番 335番
説教 「自分の命を愛する者はそれを失う」
聖書 ヨハネ12章12～26節(新約P.192)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「前奏曲とフーガ ヘ長調」D.グスタフ・デ

○ 讃美歌153番

1. わがたまよ、きけ この知らせを
主はいま死より よみがえりて
勝利の旗 たかくかかげ
われをあめに まねきたもう
2. わがたまよ、知れ このめぐみを
主はわがつみを ゆるしたまい
いさおしなき この身なれど
つきぬさちを あたえたもう
3. わがたま、つづけ 主のみあとに
主の愛われを とらえたれば
世のひとみな さからうとも
われになにの おそれかあらん
4. わがたま、ほめよ このみいつを
主はよろずをば ひとつとなし
かみのくにを つがせたもう
ハレルヤ、主は よみがえりぬ

アーメン

○ 聖歌隊による讃美

「主イエスは死に勝ちて」 ジョージ・J.エルグイー 作曲

主は死に勝ちて

主イエスはよみがえりたもう

ハレルヤ ハレルヤ

主は死に勝ちて よみがえりぬ

ひとたび主イエスは 罪に死に

父の神と 神とともに

とこしなえの 真(まこと)の命に

いらせたまいぬ

主は死に勝てり

ハレルヤ ハレルヤ

○ 讃美歌335番

1. すくいぬしの みこえをききて
身とたまを ささぐるほかに
まことの幸 またとあらじ
2. へりくだりて おきなごのごと
すがりまつる わが主のほかに
つきぬちから またとあらじ
3. つみをはなれ ころろをきよめ
ただみむねを おこなうほかに
全き自由 またとあらじ
4. 朽ちはつべき ものをうちすて
主をうやまい おそるるほかに
まことの知恵 またとあらじ

アーメン

聖餐曲「我がことを神に委ねたり」 J.S.バッハ

後奏曲「協奏曲 変ロ長調」 J.G.ゲアルター

※ 礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。